

和Well-being — 医舞同源プロジェクトが始動します

医療の力だけでは健康を守りきれない時代に、日常の生活習慣こそが心と身体の健康を支える鍵となっています。名古屋市立大学リハビリテーション医学分野と日本舞踊西川流が協同で提案する新たな取り組み「和Well-being(わ・ウェルビーイング)」は、NOSS(にほん・おどり・スポーツ・サイエンス)を活用した、「動きで魅せる」新しいエクササイズです。

NOSSは、日本舞踊が持つ「和」の美しい動きをもとに、スポーツ科学を取り入れて創案されたもので、しなやかな動作や姿勢、呼吸を通して心身の調和を促します。

本活動は「医舞同源(いぶどうげん)」の理念のもと、医療(Medicine)と舞(Dance)を融合した新しい健康づくりの形を追求します。対象は名古屋市在住の方で、健康な方はもちろん、パーキンソン病などの慢性疾患をお持ちの方まで幅広くご参加いただけます。

初回のキックオフイベントでは、西川流の優雅な動きを取り入れた実演に加え、医師・理学療法士による病気や運動に関する解説、さらに参加者全員で体験できる和のエクササイズを予定しています。舞の美しさと科学的リハビリテーションの知見が出会うことで、身体の柔軟性やバランス能力を高め、心の落ち着きや笑顔を育みます。

参加申込や詳細は公式サイト[Well-being by NOSS] (<https://www.well-noss.com/>)をご覧ください。「和」のこころとともに、楽しく健やかな日々を一緒に育んでいきましょう。



「救急の日」イベントを開催しました

名古屋市立大学病院では、日本最大級の救急災害医療施設「救急災害医療センター」を建設中です。令和7年9月9日の「救急の日」には、開棟に向けた取り組みとして、市民の皆さんと救急医療への理解を深めるイベントを開催しました。

大ホールでは、名古屋市消防音楽隊による演奏会を実施。昭和歌謡から人気アニメ曲まで幅広い世代が楽しめるステージとなりました。続いて、AQUAkids safety projectによる「サンダルは買えても、命は買えません。」をテーマにした水辺の事故防止活動紹介、能登半島地震でのDMAT隊員の現地報告、胸骨圧迫レースなどが行われました。

屋外では、VR起震車「NGK クロコくんシミュレーター」による地震体験を実施。南海トラフ地震の揺れをリアルに体感でき、多くの参加者が防災への意識を高めました。名古屋市消防局のキャラクター“ケッサイ”と“ジイジョ”も登場し、記念撮影で会場は笑顔に包まれました。



さくらほっとNEWS



いたみセンター外来スタッフ

小児慢性痛専門外来を開設しました

名市大病院のチカラ Vol.37

和Well-being — 医舞同源プロジェクトが始動します…4

「救急の日」イベントを開催しました…4

救急災害医療センター 2026年6月開棟!!

開棟
まで

あと 151 日

※2026.1.1時点



小児慢性痛専門外来を開設しました

1. 小児の慢性痛と問題点

慢性痛で苦しんでいるのは成人だけではありません。小児の慢性痛は、不登校や睡眠障害、成人慢性痛への移行、家族機能の悪化に関係すると言われており、さらに経済損失も大きいと報告されています。日本では不登校の小中学校生徒数が約34万人(2023年度)と過去最高となっていますが、その多くは身体症状として痛みを訴えています。小児慢性痛の治療は、多職種による集学的治療が基本ですが、日本では小児慢性痛を専門的に扱っている施設がほとんどありません。

2. 名市大いたみセンターの役割

名古屋市立大学病院では1967年に痛みの専門外来である「ペインクリニック外来」を開設し、長年痛みで苦しむ患者の治療に携わってきました。2017年からは、多職種からなる集学的治療を行うことができる、「いたみセンター」へと生まれ変わりました。痛みに影響する因子を多職種で評価し、薬物療法や神経ブロック治療以外にも心理社会面やリハビリテーションという目線からもアプローチしながら、多職種による成人慢性痛治療を行なっています。その過程で、小児期から慢性痛を抱えながら大人になると、その慢性痛が難治性であることをしばしば実感してきました。今回私たちは、成人慢性痛診療の経験を活かして、2025年4月より、多職種による小児慢性痛外来を開設しました。小児慢性痛治療の要は、多職種による集学的治療と言われています。当院では痛み専門医の他、臨床心理士、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、そして小児特有の発達特性にも対応するために、こころの発達診療研究センターの精神科医に協力をいただいております。痛みを抱えるこどもを全人的に評価し、ときに保護者の協力を得ながら、多職種で介入しています。時間をかけて診療するため、初診枠は毎週水曜日午前2枠のみですが、小児慢性痛診療が発達している北米の診療を参考にしつつ、日本特有の国民性や教育制度に合わせた診療内容を提供しています。こどもたちが健全な毎日を送ることができるよう、スタッフみんなでお手伝いし、成人慢性痛への移行を阻止したいという目標があります。慢性の痛みで困っているお子さんがおりましたら、まずは身体的な問題がないかを確認した上で、主治医にいたみセンターへの紹介についてご相談ください。(紹介の際には紹介状が必要です)



多職種による症例カンファレンス中の様子



小児慢性痛 でお悩みの方

小児慢性痛外来のご案内
名市大いたみセンターでは長く続く痛みで困っているお子さんがより良い生活を送ることができるように、多職種で連携して治療を行います。紹介予約制となっておりますので、詳細はかかりつけ小児科医にお問い合わせください。

小児科外来に掲示してあるポスター

名市大病院のチカラ Vol.37

がん医療支援部

がん医療支援部のご紹介

名古屋市立大学病院のがん医療支援部は、国が策定したがん対策推進基本計画の理念を踏まえ、がん医療を受けておられる患者さんを多方面から支えることを目的に日々活動しています。

- ①がん患者さんの就労支援
- ②高齢者がん患者さんへの支援
- ③小児・AYA(0~39歳)世代への療育・就学支援
- ④妊娠性(妊娠する力)の温存相談
- ⑤地域・社会との連携強化

を中心に活動しています。社会福祉士、看護師、薬剤師、医師など多職種が連携し、患者さんに寄り添った支援を行っています。

就労支援では、社会保険労務士による相談会を毎月開催し、治療と仕事の両立をサポートしています。

ピアソーター(がん経験者)による相談会も定期的に実施し、療養生活を安心して続けられるよう支援体制を整えています。

がん相談支援センター(外来棟1階)は、どなたでもお気軽にご相談いただけます。どんな小さな困りごとにも対応させていただきますので、がんと診断された患者さんは是非一度はお立ち寄り下さい。



いつでもお気軽にご相談ください！ がん医療支援部

歯科口腔外科

広範囲顎骨支持型補綴装置を用いた顎口腔の再建治療に積極的に取り組んでいます

歯科口腔外科では、口腔がんの手術、顎顔面領域の外傷・先天的異常などによって歯や顎の骨を失った方に、広範囲顎骨支持型補綴装置を用いた顎口腔の再建治療を実施しています。一般的にインプラント治療には保険の適用がありませんが、この治療には保険が適用されます。手術などで顎の骨を失った場合には義歯の安定性が失われ、食事や会話に不便を感じことがあります。広範囲顎骨支持型補綴装置を用いた顎口腔の再建治療では、残っている顎骨に複数のインプラントを埋め込み、その上に補綴装置(人工の歯や土台)を装着することで、「しっかりと咬む」、「自然に話す」といった機能面と、「口元や顔貌を自然に戻す」といった審美面の回復を目指します。必要に応じて顎骨の移植や歯肉の移植なども行います。

治療は、形成外科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・

リハビリテーション科など複数の診療科と連携して行い、患者さん一人ひとりに合わせた最適な治療計画を立てています。

私たちは、口腔機能と審美の両面からの回復を通じて、患者さんが再び笑顔で食事や会話を楽しみ、自信をもって社会生活に復帰できるよう、全力でサポートいたします。



土屋周平 講師



岡部一登 講師